

非常持出品・家庭内備蓄品リスト

安全に避難するため、また、避難した後の生活のためにも、普段から非常持出品や家庭内備蓄品を準備しておきましょう。

▼ 非常持出品

☑チェック欄

	☐ ラジオ (AM・FM両方聞ける物が便利)
	☐ 懐中電灯 (できればひとりに1個)
	☐ 予備の乾電池
	☐ モバイルバッテリー
救急薬品	☐ 携帯電話充電用ケーブル
	☐ バンソウコウ・包帯・傷薬・鎮痛剤・胃腸薬 常備薬・お薬手帳
非常食品	☐ 飲料水
	☐ アルファ化米・乾パン
	☐ 缶詰など (火を通さずに食べられるもの)
	☐ 紙コップ・紙皿
貴重品	☐ ナイフ・缶切
	☐ 現金 (硬貨もあると便利)
	☐ 通帳・印鑑
	☐ 健康保険証のコピー
衣類・防寒着	☐ 免許証・身分証明書
	☐ 下着・靴下
	☐ 上着
	☐ レインコート
その他	☐ タオル
	☐ ライター・マッチ
	☐ ティッシュ・ウェットティッシュ
	☐ カイロ
	☐ ラップ
	☐ ヘルメット
	☐ 軍手
	☐ マスク
	☐ 除菌アルコールシート
	☐ 手指消毒液
☐ 体温計	

▼ 家庭内備蓄品

☑チェック欄

食品	☐ 米
	☐ 副食品のおかず
	☐ 菓子類
水	☐ 調味料
	☐ 飲料水は1人1日3リットルを目安にペットボトルなどに用意しておく
燃料	☐ 卓上コンロ (予備のガスボンベは多めに用意) やアウトドア用の携帯コンロ・固形燃料
	☐ 生活用水 (風呂や洗濯機に汲み置き)
その他	☐ 毛布・衣類・防寒着
	☐ 洗面具・衛生用品
	☐ ビニールシート・新聞紙
	☐ 簡易トイレ
	☐ マスク・体温計

※国は1週間程度の備蓄を推奨しています。
(最低3日間を目標にしましょう。)

※要配慮者がいるご家庭は、P27を参考にそれぞれ必要なものを準備しておきましょう。

ローリングストック

日常的に食べているものを少し多めに備蓄し、食べたら買い足すことを繰り返して、常に家庭で備蓄しておく方法のことです。この方法なら普段から食べているものが災害時の食卓に並び、安心して食事をとることができます。



フェーズフリー

日常時に使っている物やサービスを、非常時にも役立てるという考え方です。防災用品のほとんどは、非常時しか使うことがなく、費用もかかるため準備が後回しになりがちです。

日常時も非常時も、どちらの場面でも役に立つものであれば、普段から使い慣れたものになり、いざという時にすぐさま活用することができ、防災用として余分に準備する負担も軽減することができます。

ペットといっしょに避難できます

～日頃からの備えが大切です～

ペットに関する防災の基本は、飼い主が責任をもって対応することです。

避難が必要な場合は、ペットを同行して避難することができます。

普段のこころがけ

健康管理

狂犬病予防注射、感染症のワクチン接種、寄生虫の駆虫は必ず済ませましょう。避難所での感染症の予防やペットの健康を守りましょう。

避難場所の確認

災害発生時の避難場所の位置や、自宅からの経路を確認しておきましょう。

避難袋の用意

ペットの餌や水などの飲食物 (最低5日分)、ペット用トイレ、薬、ケア用品、飼い主と一緒に写った写真、ケージ、キャリーバッグなどは、すぐに持ち出せるように用意しましょう。

所有者の明示

ペットと離れ離れになった時のために、首輪に鑑札と狂犬病予防注射済票、迷子札などを付けたり、マイクロチップを装着するなど、所有者明示をしましょう。犬の飼い主は、市町村への登録義務があります。

■お問い合わせ先／

環境室 ☎072-870-9625



しつけ

犬の場合

- ☐ 「待て」「伏せ」などの基本の号令に従う
- ☐ ケージに嫌がらずに入る
- ☐ トイレは決められた場所でする
- ☐ むだ吠えをしない
- ☐ 他人や他の動物を怖がらない

猫の場合

- ☐ ケージやキャリーバッグに嫌がらずに入る
- ☐ トイレは決められた場所でする
- ☐ 他人や他の動物を怖がらない

災害時のこころがけ

災害が発生したら、まずは自分たちの安全を確保

飼い主が無事でなければペットの安全を守ることはできません。災害が起きたときは、まず自分たちの安全を確認しましょう。そしてペットが無事か確認しましょう。

避難時には避難袋を忘れない

避難袋に用意できないものは身近に置き、一緒に持ち出せるようにしましょう。避難所では基本的に離れて暮らす必要がありますので、しっかりと準備しましょう。

避難はペットもいっしょに

避難が長期間になるかもしれません。ペットに必要なものなどを事前にしっかりと準備しましょう。

協力し合える仲間をつくる

普段から、ペットについて気軽に相談ができる仲間をつくりましょう。いざという時の助けになったり、一時的に動物を預かってもらえるなど、普段からの交流も重要です。

犬、猫、小鳥、小型のげっ歯類等の一般的なペット以外の動物は、避難所での受入れが難しい場合もあります。状況によっては、同行避難が難しい事態も考えられます。また、避難所で飼育が難しい動物を飼う場合や、ストレスに弱い動物、特殊な環境を必要としたり停電時に飼育が困難となる動物を飼う場合など、万一のときの預かり先を確保しておくことが大切です。

